



交差する歴史と神話 みやざき発掘100年

— 古事記編さん1300年 西都原古墳群発掘100年記念 —

シンボルマーク：天孫降臨神話の舞台である山、多くの伝承や神楽が残される里（溪谷）、海幸山幸神話の舞台である海を表現しています。また、山と溪谷でMiyazakiの「M」を、海の波で「釣鉤」や隼人楯の文様を表現しました。神話の舞台である山・里・海とともに、出土資料である隼人楯の文様を表現することによって、実体としての歴史をも引き寄せています。色調は、太陽を浴びて輝く山の赤、溪谷の緑、海の色で宮崎の自然を表現しています。

宮崎県立西都原考古博物館

国指定特別史跡西都原古墳群と一体化した考古学専門博物館として、2004（平成16）年に開館し、2014年には10周年を迎えます。西都原古墳群は、1912（大正元）年から1917年に、我が国初の本格的な古墳の学術調査が行われました。それは、史跡の保護とともに、『古事記』『日本書紀』に記された神話世界の史実性を検証しようとするものでした。それから100年。本県の文化財保護の出発点とも言える西都原古墳群の発掘をはじめ、近年の古墳群の調査と整備、宮崎県の考古学の歩みを紹介する多彩な事業を展開します。

- ・西都原古墳群発掘100年記念講演会、講座の開催
- ・西都原古墳群基礎調査
- ・特別展「西都原古墳群発掘100年記念展」の開催（平成26年度）



遺跡が語る 新しい『古事記』



宮崎県教育庁文化財課

1972（昭和47）年、県内の文化財保護と文化振興を担当する「文化課」が社会教育課から分立しました。2005（平成17）年には「文化財課」となり、国・市町村と連携しながら文化財保護行政を担っています。古事記編さん1300年・西都原古墳群発掘100年の節目の年にあたり、本県の文化財保護の歩みを振り返りつつ、歴史と文化、神話との関わりについて広く発信します。

- ・記念イベント&シンポジウムの開催（平成24年度）
- ・宮崎県文化財関係古資料のデータベース化

西都原の100年 考古博の10年 そして、次の時代へ

712 古事記編さん

720 日本書紀編さん

1912 西都原古墳群発掘調査（～1917）

2012 古事記編さん1300年・西都原古墳群発掘100年

2013 東九州自動車道関連発掘調査の完了

2014 宮崎県立西都原考古博物館開館10周年

2012（平成24）年は、『古事記』の編さんから1300年、西都原古墳群の大正元年の発掘から100年となります。2013（平成25）年度には東九州自動車道関連の発掘調査が完結し、2014（平成26）年4月には県立西都原考古博物館が開館10周年を迎えます。本県の埋蔵文化財保護行政にとって重要な節目にあたり、これまでの100年を顕彰し、これからの100年を展望するための事業を展開します。

貴重な文化資源であり観光資源でもある埋蔵文化財を通して、本県の歴史と文化・神話との関わりについて広く発信し、「郷土を知り、郷土を誇り、郷土を愛する心」を育みます。

写真提供：森田敬三

土製聖人像

塩見城跡（日向市）16世紀
女性とオリーブ葉のレリーフは、聖母マリアを表している。



船形土製品

尾花A遺跡（川南町）3世紀
外洋航海も可能な準構造船をモチーフとしたもので、波切板の表現が見られる。



宮崎県埋蔵文化財センター

1982（昭和57）年の開所以来、宮崎学園都市遺跡群をはじめ、県内各地で発掘調査を実施してきました。1996（平成8）年からは、東九州自動車道建設に伴う大規模な発掘調査を行い、清武～延岡間の数多くの遺跡から貴重な遺構や遺物を発見しました。そこで、東九州自動車道関連調査をはじめ県内遺跡の調査成果を、多くの皆様にご覧いただくための様々な催しを行います。

- ・特別展「東九州自動車道関連発掘調査の成果展」（平成25年度）
- ・連続講座「みやざき発掘100年物語」
- ・埋文サポーターの育成
- ・地域展示の開催、地域歴史ブックの作成（平成26年度）



過去と未来の クロスロード

三角縁神獣鏡

西都原13号墳（西都市）4世紀

大正5年の発掘調査で出土。卑弥呼の鏡とも言われた三角縁神獣鏡であるが、本資料は国内で作製された仿製鏡である。



現在も進む整備事業

西都原100号墳（西都市）4世紀

平成の整備事業により、発掘されたままの姿で保存、公開されている。



大正時代の西都原の発掘調査

西都原72号墳（西都市）4世紀

後円部から木棺を粘土で覆った粘土槨が発見された。当時、粘土槨の発見は国内初の事例であった。